受付番号	52		
許可番号	大歯医倫　第 111079 号		
研究課題名	Coronectomy（歯冠部切除術）施行後の短期的予後		
研究責任者	窪 寛仁	申　請　者	妻野 誠仁
研究終了日	2023 年 3 月 31 日		
所　　属	口腔外科学第二講座	所　　属	歯学研究科 口腔外科学専攻
職　　名	講師	職　　名	大学院 1 年生

申請の概要

下顎第三大臼歯抜歯術は口腔外科で日常的に行われる小手術の一つであるが、術後合併症の一つに下歯槽神経損傷に伴う知覚異常がある。Coronectomy（歯冠部切除術）は下顎第三大臼歯抜歯に伴う神経損傷を回避するために 1990 年代から欧米諸国で臨床応用されている手法で、歯冠部のみを除去し、歯根は骨内に残存させておく方法である。Coronectomy（歯冠部切除術）は通常の抜歯法と全く同じプロセスで進めていく手法なので手技的に施行しやすく、骨の中に残した歯根が経時的に移動して下歯槽神経から離れていけば、少ない神経損傷のリスクで歯根を抜去することができる利点がある。しかし、Coronectomy（歯冠部切除術）施行後の術後経過はまだ十分に解明されていない。

そこで、本研究では、より安全な Coronectomy（歯冠部切除術）施行のためのクライテリアを確立するために、口腔外科を受診し、パノラマエックス線検査で下顎第三大臼歯根尖と下顎管との近接が認められ、歯科用コーンビーム CT で下顎第三大臼歯根尖と下顎管との接触が確認された症例のうち、Coronectomy（歯冠部切除術）を希望する成人患者（約 10

名、男女は問わない）に対し、 Coronectomy（歯冠部切除術）術を施行し、術後 1、3、6、12 か月に実施される創部の治癒過程や歯根の経時的な移動の有無について経過観察及びパノラマエックス線検査のデータを用いて評価する。

本研究により、Coronectomy（歯冠部切除術）施行のためのクライテリアが確立されれば、より安全な Coronectomy（歯冠部切除術）の施行が可能となり、下歯槽神経麻痺のリスクを低減させることが期待できる。